

## 平成21年度第4回周南市行政改革審議会会議録（要点筆記）

日 時	平成21年8月3日（月） 15時00分～16時55分
場 所	周南市役所 本庁第2会議室
出席者	行政改革審議会委員10名
欠席者	1名
事務局	原田企画総務部次長兼市長公室長、道源係長、多嶋田主査、有福主査
傍聴者	0名

### 1 第2次周南市行財政改革大綱及び実施計画について

○会長 第4回行政改革審議会を開催する。

第2次周南市行財政改革大綱（案）及び実施計画（案）の審議に入る。

まず、行財政改革大綱（案）の修正点等について説明をお願いします。

#### 〔事務局、第2次周南市行財政改革大綱（案）の修正点について説明〕

○会長 何か御意見はあるか。——もう1回修正の機会があるので、目を通していただき、何かあれば、次回に御意見を伺いたい。

次に、実施計画（案）の修正点等について説明をお願いします。

#### 〔事務局、第2次周南市行財政改革大綱実施計画（案）の修正点について説明〕

○会長 今の説明で御意見があるか。——特に問題はないようなので、「「選択」と「集中」による事業見直し」について説明をお願いします。

#### 〔事務局、第2次周南市行財政改革大綱実施計画（案）の「「選択」と「集中」による事業見直し」について説明〕

○会長 「公共工事における環境配慮の推進」については、削除の理由も明確であり、削除してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

**○会長** 削除する。そのほかに御意見はないか。

**○委員** 「行政評価システムを活用した事業の再編・整理」の現状・問題点のところ、  
「行政評価で「見直しを検討する」とした事業で、市民生活に直結した事業であるため、  
容易に結論が出せない事業もある」ということであったが、具体的にはどういうことか。

**○事務局** 行政評価は、昨年度は1, 327事業評価し、それぞれ4段階の評価を行政  
評価委員会で行っている。簡単に言うと、Aは推進する、Bは若干修正し推進する、C  
は大きく見直して推進する、もしくは大きく見直して廃止の方向とする、Dは基本的  
には廃止の方向とする形で評価している。

その中で、C、Dの見直しを検討するもので、市民生活に直結した事業、例えば補助  
金などはなかなかやめられないものもある。委員会の評価はあくまでも評価であり、削  
減するかどうかはいろんな事情、判断の中で決まるというものもある。

**○委員** そもそも評価する意味がなくなってしまうような印象を受けてしまう。行政評  
価で判断したものについては、できるだけ尊重するという前提にすべきである。

現状・問題点で、最初に言い訳のように入っているのは引かかる。表現が何とかな  
らないかという気がする。

**○事務局** この辺は表現を見直したい。

**○会長** ここは、直接的に表現するのではなく、原則に返って表現し直していただきたい。

**○委員** 「低炭素社会の実現に向けたシステム・設備の導入推進」の中の効果だが、二  
酸化炭素排出量を何%程度削減目標としているのか。

光熱費の削減を効果に掲げているが、どの程度の削減が可能になるのか。

**○事務局** 数字は今持ち合わせてないが、今目標を立てている。具体的な数字を入れて

表現したい。

**○委員** 「庁内のペーパーレス化」の現状・問題点で、「電子決裁によるペーパーレス化を推進しているが、浸透しているとは言えない状況」ということだが、なぜかということがここに一言欲しい気がする。

もう1つは、実施内容でコンサルティングの導入を検討するということがあるが、コンサルティングをすぐに導入するという発想ではなく、もっと先進的な他都市のやり方を導入してやっていけばいいのではないか。

**○事務局** ペーパーレス化が進まない理由については入れたいと思う。

電子決裁システムでは、データに取り込み、紙は付けない方向で行っていたが、わかりにくいということで、現状は紙を付けているものもある。

そのあたりも変えていくべきであるということで庁内ペーパーレス化を項目として挙げている。職員の意識の部分も、ペーパーレス化が浸透していない原因の1つと思われる。

コンサルティングの導入については、経費もかかるので、まずは先進事例から検討したい。

**○委員** コンサルティングの導入は、ほかの項目にはない。ここだけこういうことが出てくると奇異な感じがする。ほかはコンサルティングの導入はないのか。わざわざ手法として入れることなのかということが、非常に不自然な気がする。

**○事務局** コンサルティングについては、発生してくるものも多分あると思うが、ここだけあえて載せるというのはおかしいと思う。調整させていただきたい。

**○委員** 「生活交通手段の確保・充実」の現状と問題点の中に、基礎的条件が厳しいと表現しているが、基礎的条件の内容は。鹿野地区での乗合タクシーについての要望の状況は。

**○事務局** 熊毛の勝間を除いた地域、須金から須々万、和田などを中山間地域としてい

るが、中山間地域の振興策は、総合計画の後期基本計画の1つの大きな柱とすることになっている。

生活交通手段は、各地域で一番大きな問題になっている。各地域で形態が違っており、地域に合った交通体系を考え、練っていこうと思っている。

鹿野の乗合タクシーについては、思ったほどの利用はない状況である。

鹿野の場合は、バスの路線がないところなので、乗合タクシーの事業がうまく適用できるが、それぞれ地域に合った生活交通手段を地域の中で考えていくことが基本的な考え方である。

**○会長** 生活交通手段の確保・充実がテーマなので、それに合わせて表現しないといけない。一般的なことと読まれる危険性がある。それぞれの地域でどのように交通手段を確保していくかということと、そのための施策をここで述べるべきである。そのように表現を変えていただきたい。

**○委員** 「ごみの減量化・再資源化の推進」の実施内容では、業者への減量化の指導があれば、減量化につながるのではないか。例えばスーパーでトレーが多用されているとか、過包装が多いことに対する指導は、実施内容に加えられないか。

**○事務局** 実施内容に入れられないことはないと思うので、所管課と協議し、可能であれば入れたい。

**○委員** 「幼保連携の推進」で認定こども園はいつごろできる見通しか。

**○事務局** 私立の幼稚園児が減って、経営が成り立ちにくくなっている一方、保育園は中心部で待機児童が増えて保育園が足りない状況になっている。

保育園と幼稚園の国の所管は、それぞれ厚生労働省と文部科学省で縦割りになっている中で、考えられたのが認定こども園である。私立幼稚園の中に保育園の機能を入れ、幼稚園の先生と保育士と一緒にその中で、幼稚園と保育所が1つの建物の中にできるというものである。

山口県では今のところ保育所で待機児童がいるという現状ではないので、すぐに認定

こども園の制度を使う動きは今のところ余りない。岩国で1か所認定こども園がある。

周南市は、市立幼稚園が多く、私立幼稚園と競合している街中に多いことがあり、その辺も含めて、保育園と幼稚園が統合できる場所については、この認定こども園の制度を使って、同じ敷地の中に1つにまとめてもいいのではないかとということで、幼保連携を考えている。

したがって、認定こども園の制度を使ってというのは、2、3年先ということにはならないと思っている。

**○委員** 合併前は、新南陽は保育園は充実して問題なかったが、合併により戸田地区の方たちが、保育園がないということで、新南陽地区の保育園に預けるようになってしまった。

そのため、新南陽地区に保育園に預けていた人たちが入りにくくなり、徳山地区に行くが、それでも入れない。空いているところといえば、山間地区の須々万などなら空いているからどうかと言われる。実際、働きに行くのに、わざわざ須々万まで預けるのは現実的ではない。

それから乳幼児と幼児を別々に預けなければならないのは、母親にとっては大変なので、なるべく預けられる方法をとってほしいという要望は聞いておられると思うが、認定こども園のような理想的な問題でなく、もっと現実的な対応をお願いしたい。

**○事務局** 今幼保連携事業で進めようとしているのが、1つの地域で幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校まである鹿野地区で、合理的に取り組もうとしている。

もう1つは、西部3地区の1つの幼稚園の中に保育所機能を入れてやってみようということも、次の段階で考えている。認定こども園とは別の考え方で幼保連携事業は推進していきたい。

**○会長** 母親が働きに出て、社会参加するという観点をどうするかという保育園等の環境整備の問題が、この中に入っていない。市として環境整備をどのように進めるかというところが重要だと思う。

この件は、事務局で適切な方法について検討をお願いする。幼保連携について必要性があれば、現場の方に聞いて、必要性が高いようであれば、この中に入れることにした

い。

**○委員** 子ども対策ということは、結構あちこち出ている気がするが、高齢者対策の部分はどこかに出てくるのか。一番重要な部分を忘れていないのか。

**○会長** 現状維持は少なくとも行うということであれば、本文の中に2行程度入れておく必要がある。

**○委員** 何らかの形でそういう表現をしておく必要があるような気がする。

**○会長** 行財政改革なので、するものとししないものもある。しないほうもある程度明確にしておいたほうが担保できる。

**○委員** 「小中学校の適正配置」で、周南市学校再配置計画（案）が平成19年3月に答申されているということで、現状の小学校が最終的にどの程度になるように答申されているのか。

**○事務局** 今の教育委員会の基本的なスタンスは、複式の学級がある学校については、地域の方の御要望をお聞きして回っているというのが現状である。

先般、大向小学校が休校になったが、各地域の方が沼城小学校にということで、交通手段を確保して、休校になっている。

実際に統合する、しないということは地域の方と教育委員会で話をして決めるが、基本線は、行財政改革ということで、ベースになるものは持っておきたい。

**○委員** 「男女共同参画の推進」だが、この間のニュースで国連の機関から日本政府の女性の地位向上についての取組が非常に悪いということを痛切に批判されていた。

実施内容として挙げられているのは、審議会の女性の割合を高めるとか、ちょっとした形だけのものになっていないか。

市役所で役職のある女性の割合が、職員の割合から釣り合いが取れているか。また、市役所でそれをいつまでにどのように高めていくのかというようなものが要るのでは

ないか。

組織力・職員力の向上というところを見ても、女性の問題は取り上げられていない。女性が目標を持って意欲的に働くためには、そういう面での取組が必要ではないか。

**○会長** 「選択」と「集中」による事業見直しの意見が出尽くしたところで、男女共同参画の推進について御意見が出たので、「市民と共に歩む市政の推進」について説明を受けた後に、回答をお願いします。

### 〔事務局、第2次周南市行財政改革大綱実施計画（案）の「市民と共に歩む市政の推進」について説明〕

**○事務局** 市長も女性職員の幹部の登用についてはずっと言及している。これからどんどん出てくると思う。人材育成基本方針でも述べており、その辺は成果指標に入れるようにしたいと思う。

**○会長** 気になるのは、女性委員の割合の減少となっているが、それほど大きく伸びていないということではないか。

**○事務局** 進んでいない。

**○会長** 組織力のところで女性の労働力をいかに活用するかということが、周南市の組織上でどのようになっているか。文章にするかどうかは別にして、背景の説明をいただきたい。組織力の点のところは大綱で意識的にある程度入れておいた方がいい気がする。

**○委員** 「市民参画評価システムの確立」の中で、市民参画の方法でパブリックコメント、ワークショップとあるが、実質的には審議会がほとんどの市民参画のメインになっているのではないか。審議会をメインに項目として入れるべきではないか。

審議会の数も相当数あり、審議会が本当に必要であるか見直しが必要ではないか。審議会へ参加される方への手当も要るし、組織の改革によってダブった形でまだ実施されているものがないのかどうか。その辺の見直しも含めて検討の必要性があると感じた。

**○事務局** この会も審議会で、パブリックコメントを行う前に審議会で御審議をお願いしている。審議会については、文章の中に入れさせていただく。

審議会の中に役割を終わったもの等はないかということで、昨年調査している。その中でほとんど法に従ったもの等が多く、やめていただいたのは数件程度しかなかった状況である。

**○委員** できるだけ多くの市民の方が参画するためには、審議会は余り適当なスタイルではない。人数が限られており、公募委員は二、三人の枠しかない。もっと市民参画を拡充するためには、審議회를重視するのではなく、ほかのやり方のほうがいいのではないかと思う。

パブリックコメントは、忙しい人でも、だれでも参加できる。そういうところをもっと活用していく方法すべきである。

大綱の推進体制図の中では、市民が参画するのは、行政改革審議会しかないという図に見える。例えば、パブリックコメントなどを入れることはできないか。

**○事務局** 行財政改革大綱、実施計画については、作るときには、パブリックコメントを実施し、市民の意見を広く聞くが、その後は、毎年、行政改革推進本部へ実施状況を提出し、情報は公開している。

もう一步踏み込んで、ホームページ等で公開し、それについての自由な御意見等を聞くというシステムを考えてみたらいいのでは思っている。

審議会については、岩国市では1つの大きな審議会があり、部門ごとに分かれて、すべてそこで審議するという方法をとっている。これも研究する価値があるのではないかと思っている。そうすると、委員の入れ替え等が難しいので、その辺も含め、今後の検討材料である。

**○事務局** 大綱の推進体制図についてだが、パブリックコメントということにはならないかもしれないが、意見をいただくことはいろんな方法で十分できると思うので、それを次年度の行財政改革の推進に役立てていくという形に変えてみたいと思う。研究させていただき、次回に示させていただきたい。



**○委員** 「自主防災組織の充実強化について」だが、組織は作るが、次につながっているかといえば、どうかという点がある。中味の充実をお願いしたい。

**○事務局** 実施内容には、組織率の向上ということまでしか記載がされていない。強化する部分を、訓練等も含めて入れていく必要があるので、もう1項目入れさせていただきたい。

**○委員** 自助・共助・公助を基本理念にするということは、地域の方が自主的に活動されるということで、非常に重要なところだと思うが、それにもかかわらず自主防災組織が設立されていない地域があるということ自体が、非常に問題だと思う。

積極的に働きかけを行うということだが、もっと強制的に全部組織してもらえるような方向には行かないのか。自治会イコール自主防災組織ということであれば、すべて組織できると思う。そういうことはできないのか。

**○事務局** 今の時期がちょうどいい機会かと思っている。県も特別警戒区域などいろいろな網を新たに周南市にも掛けてきている。行政の災害対策本部だけで回そうと思ってもなかなか難しい。迅速に自主防災組織の組織化ができるように、もう少し目標高く掲げていってもいいのではないかと思っている。

**○委員** 何かが起こってからというよりは、日ごろから備えることが大事だと思う。

**○委員** お年寄りの方がふえているが、簡単にお年寄りは避難できない。自主防災組織を強固にしていくことは重要ではないかと思う。

**○事務局** 局地的な災害であれば、集中して対応できるが、今回のように規模の大きい全域の災害となるとなかなかすべてに手が回らない。そうなると、地元での組織作りということは非常に重要になってくると思う。

**○委員** 自主防災組織の設立に他団体との連携が非常に大事になってくる。例えば地区

社協では見守り活動を組織化したり、小地域での高齢者のサロンも組織されており、行政だけでは難しいところがあると思うので、地区社協などと連携して進めていくことを盛り込んだらいかがか。

**○事務局** 自主防災組織には、自治会、老人クラブ、PTA、地区社協も入っている。自主防災組織の充実強化を図っていくことの中で、当然そういう話し合いをしていかななくてはならないと思う。

**○会長** 「自主防災組織は、15地区、10単位自治会で設立されている」と書いてあるが、一般的にしないと、危機防災管理のネットワークができない。他団体との連携なども位置付けしてやっついていかないといけない。

市民の安全のため、どのように市がバックアップし、啓発し、安全な暮らしを実現させていくのか。もし事が起こった場合に、どのような対処をするのか、体系的に整理することが必要な感じがする。

「自主防災組織」という名称を残すとしても、前段部分を入れたほうがよい。後段部分は、それをどのような方法で展開させていくのかとし、位置付けをすべきである。

**○事務局** 市内全域で早急に自主防災組織を立ち上げるというあたりの言葉が必要かと思う。

**○委員** どういう災害を想定するかによって、自主防災組織の役割が変わってくる。一般的には人命救助が第一だと思っている。しかし、だれがどこに住んで、どういう状況になっているから助けに行かないといけないというような情報がきちんと管理されて、その情報を地域の皆が共有しないとなかなかうまくいかない。

そのような情報提供をしていただくことが一番ありがたい。地域には名簿も何も出てこない。その辺からきちんと作り上げてほしい。

**○委員** 人命救助という大それたことはできない。自分たちが逃げるのが精一杯だと思う。自治会全体を把握するのは難しいが、班に分かれていれば、回覧板を持っていったりするので、どういう方が住んでいるか、大体は把握できる。

ただ、災害が起きたときにどうしたらよいかという意識改革の啓発はしていく必要がある。

**○委員** 鹿野町の職員のOBの方が中心になって、防災マップを作った。実際の訓練までやっており、実施内容の部分まではできている。それを一歩進めるのであれば、実施内容をもう少し表現で、ここまではやろうという表現をする必要があるのではないか。

**○事務局** 自主防災組織は、予備知識の普及が非常に大事なことである。災害後の避難所の運営などの御協力も必要ではないかと思う。そういった部分では、もっとどういうことをしなくてはいけないのかということ、ある程度書いておかなければならない。

**○委員** 行政として土砂災害危険区域についてのマップをつくっておられると思うが、そういうものに基づいて、各該当の地域から手をつけていくことにすればよいのではないか。

条例を作って、具体的に組織化していくぐらいの緊急性があるのではないかと思う。なかなか自治会の中で自主的に作ろうという声は出てこない。その辺は行政からどのようなことからできるかという細かなところから助言、指導が必要ではないかと思う。

**○会長** 「自主防災組織の充実強化」は地域に関係した充実強化を図っていくということをもう少し増やして、どこまで今回できるのかということは検討していただきたい。

**○委員** 今15地区で自主防災組織が設立されているということだが、平成22年度に81%の自主防災組織率を目標としている。今の15地区なら何%になるのか、全地区で何地区あるのかわかりにくい。

**○会長** 文章の中に入れて下さい。

**○委員** 「公募提案型協働事業の推進」で「3年間で一定の成果はあったが、提案者と関係所管課との連携、協働がうまくいかない等の問題があった」というのは気になる。なぜそのようになったのか。

備考にも、「現段階では、協働事業と言いながら、「新たな公」として市民活動団体等が行政の一部を担うというような状況ではない」という非常に厳しいコメントがある。この辺の事情を確認したい。

**○事務局** ひと・輝きプロジェクトでは、市民の皆さんに自由に応募していただき、採択し、補助金を交付し、自分たちの手でプロジェクトを行っていただくということが最初のねらいだったが、当然行政としてのかかわりが出てくる。その中で、自分たちが提案したがやめたという部分と、行政もなかなかかかわりができなかったということもあり、連携、協働がうまくいかなかったという表現になっていると思う。

今度行う公募提案型協働事業は公共が行う部分と、民間が行う部分の重なり合った部分を公募し、提案をいただくもので、少し変えていくものである。

公共が行う部分と、民間が行う部分の重った部分については、協働とはいいいながら、完全に認識することが難しいという部分があるという意味で、このように記載しているのだと思う。

**○委員** 表現が少し挑発的な感じがするので、もう少し表現を改めていただいたほうがよいのではないかな。

**○事務局** 現状の問題点については、もう少し考えて記載したい。備考欄については、実際に公表する際は、掲載しない。

**○会長** 「総合型地域スポーツクラブの育成」については特に異論はないので、削除で構わないと思うが。――削除することにする。

**○会長** 本日の意見交換はこれまでにして、反映できるところは反映し、事務局で整理しお示ししたい。

今回は、8月25日午後1時30分に第2会議室で開催するということなので、そのときに意見を交換したい。

**○事務局** 次回には答申案ができるように、意見の取りまとめをお願いしたい。

**○会長** そのほか何もなければ、本日の審議会は閉会する。

**〔閉 会〕**